



名古屋大須ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

NO 956

＜本年度クラブ会長方針＞

LEAD THE WAY - 率先しよう



承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
 会長 神田 憲 URL <http://www.nagoya-osu.org> Email office@nagoya-osu.org
 幹事 内藤 明 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337
 事務局 460-0008 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル 6F

2006～2007年度
 R. I. 会長
 ウィリアム B. ボイド

第1116回例会

平成19年5月31日(木)

於：料理旅館わたなべ

出席計算数 62名中 52名出席
 出席率 83・87%
 前々回出席率 86・89%

ニコボックス

渡辺剛男さん、御世話になります。

神田 憲

本日は当館をご利用まことに有難うございます。 渡辺 剛男

長野 弘さんを歓迎して。

尾上 昇

卓話の場を設けて頂きありがとうございます。 長野 弘

長野 弘さん、卓話をよろしくお願ひします。

藤田 徹・堀江 英弥

横井 衛・新沼 操

太田 裕・横内 恭

近藤宏一郎・湯山 淳三

木村 光徳・犬飼 芳雄

北川 晶邦・日比野芳丈

宮崎でホテルを見て来ました。

伊藤 清次

本館9・10Fレストランがオープンしました。しばらくは昼は混雑しますが、よろしくお願ひいたします。

田近 健也

藤田さん、お久しぶりの例会ですね。 吉田 隆彦

佐藤次年度委員長さん、大変お世話をお掛けしました。

加藤 正樹

汗ばむ季節になりました。

前田 隆久

オオスシガーズの皆さん、札幌の発表会、頑張ってください。

大原 敏正

会長挨拶



会長 神田 憲

世界大会は皆さんよくご存知と思いますが、ロータリーの地域大会を知らない方が多いと思いますので、今日はアジア地域大会に触れたいと思います。

第1回は1958年(昭和33年)

11月インドのデリーで開催。第2

回は1979年(昭和54年)9月韓

国・ソウルで開催者は9,096人。

第3回は1984年(昭和59年)

11月フィリピン・マニラで開催者

は2,885人。第4回は1987年

(昭和62年)10月インド・ニューデ

リーで開催者は10,501人。第

5回は1996年(平成8年)10月

にタイ・バンコックで開催者は10,

330人。この第5回アジア地域

大会に加藤正樹副会長と参加を

しました。

ルンビニ公園近くのワールドト
 レッドセタワーで開催され、41ヶ
 国(アジアから17ヶ国)から集ま
 り、タイ人は3,600人、日本人
 は3,200人の参加でした。

世界大会の規模・華やかさはあ
 りませんが、行事内容は世界大会
 の3/4版でアジアの民族色が豊か
 に感じられ、その中に黄衣をまと
 つた僧侶の方もみつけました。タ
 イは国民の95%が仏教徒です。チ
 ヤオパヤ・パークホテルに宿泊し、
 そこに韓国のロータリアンの団体
 がいて、そのグループに紛れ込み
 タダ飯を食べた思い出がありま
 す。バンコックの名物であるトウク
 トウク(小型オート三輪タクシ
 ー)にも乗りましたがもうもうと
 噴き出す白煙と爆音にはまいり
 ました。

このアジア地域大会は、今回で
 最後になるかも知れないと言っ
 話が当時できていましたが、その後
 やはり開催されていません。今後
 アジアでの世界大会は2009年
 ソウルで20年振りに、また201
 2年にバンコックで初めて開催され
 ます。

帰りにマレーシアのクアララン
 プールに寄りましたが、ランドマ
 ークであるペトロナスタウンタ
 ワーは当時まだ建設中でした。
 (余談ですが、今朝これらの資料

をPCで調べておりましたら、こ
 んな記事が載っておりました。1
 964年昭和39年(の東京オリン
 ピックの聖火台は東京のRCが中
 心になって寄付されたものであ
 る。)

卓話

「NGZ」について

会員 長野 弘さん

NTTネオネットは、NTT西日
 本のグループ会社として平成14
 年5月に営業を開始し、NTT西
 日本の情報流通ネットワークの計
 画・構築・運用を一手に担うほか、
 自治体や企業ネットワークの保守
 ・IT新規ビジネスの開発・提供等
 を行っています。社員数は約1,7
 00人、東海支店では約1,200人
 が4県下の18拠点で仕事を行っ
 ています。



卓話される長野さん

今回は、事業の柱である「情報流
 通ネットワーク」の新たな動きと
 して「NGZ」にも取上げられて
 いる「NGZ」についてお話しだけ

解りやすくお話しします。

NGNとは、固定電話の信頼性・安定性とIP網の柔軟性・経済性を兼ね備えた「次世代ネットワーク」(Next Generation Network)のことです。従来のサービス毎のネットワークを一体化し、品質保証やセキュリティ強化により信頼性を高め、更に、あらゆる企業が利用できるように、接続仕様を公開したオープンなネットワークとなっています。

NGNは、NETグループの中期経営戦略「2010年までに半数のお客様に光サービスを提供する」を実現するための基盤となる設備ですが、総務省が提唱する「u-pan」構想を支える基幹ネットワークとしても期待されているほか、世界の標準化競争に先行し、日本の国際競争力を高める狙いもあり、NETグループが総力をあげて取り組んでいます。



今回も、技術的な話よりも、NGNでサービスがどのように変わるかにについてお話ししますが、今回紹介する「遠隔病理診断支援システム」、「高品質IP電話会議」、「ロボット

による優しい見守り」等以外にも、ビジネス、生活、社会において様々な使い方やサービスが生まれる可能性を秘めているため、これらを創造する目的で、様々な分野の企業の皆様に参加をいただいで平成18年12月からNGNの共同実験「フィールドトライアル」を開始しています。

「紹介したサービスを含め、NGNのフィールドトライアルは東京(大手町)と大阪(梅田)のシームレス「NOTE」で体験できますので、興味のある方は是非足をお運び下さい。なお、来場にはホームページからの予約が必要です。

ロータリーの綱領(解説)

職業奉仕委員会
委員長 近藤宏一郎

各子屋みなとPCC委員 関口宗典先生編
ロータリー職業奉仕を理解するため「よしの用掲載」を頂戴します。

(1)ロータリーの綱領とは、皆様方への暗記するほどの存在の「こと」がありますけれど、私どもは、案外綱領について無知な点があるのではないかと、もう一度反省してみる必要があると思えます。

The Object of Rotary をロータリーの綱領と訳したため綱領といつ言葉自体が非常になじみにくい、そのあと「ロータリーの

綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにあり。」「という意味が書いてありますけれども、この翻訳も実に精巧といえますが、堅苦しい分、かきにくい感じがします。

(2)「奉仕の理想」といふ言葉は、非常に分かりにくい。「ideal」といふ英語を「理想」と訳して間違いないけれど、分かりにくい。「ideal」といふ言葉の中には「観念」という意味がある。だから「奉仕の観念」と訳したほうがいいのだ。しかし「観念」と訳すと非常に哲学的になつて分かりにくい。「奉仕の気持ち」と訳したらどうだろう」といふことをぜひ古い昔に提唱されております。同じような考え方から、これを「奉仕の心」と訳す方もいますし、あるいは「奉仕の理念」とも言う方もいます。それぞれ「自分の考え方があって、言っているのですが、ロータリーの「奉仕の理想」といふ言葉を、「奉仕の気持ち」に考え「奉仕の心」と考えると分かりやすく理解できるのです。奉仕の心ロータリーの心、これは「ツール」です。

(3)「奉仕とは人様のお役に立つように人様のことを考え行動することです。ロータリーでは service を奉仕と訳していますが、奉仕は

「仕え奉え」で表意文字で「目下の者から目上の人に、例えば、神様とか、仏様とか、君主とか、上の人に対して身を犠牲性にお仕えするのが奉仕」といふ言葉です。即ち、上下の関係です。ロータリーでいう service は、そこではなくて他の人の事を思う、それが行動に移る場合は人様のお役に立つこととなる訳です。すなわち、上下の関係ではなく、左右水平の関係です。

(4)この綱領の一番最初の部分も有益な事業といふのはロータリアンの事業は皆有益なはずでありまして「ロータリアンの事業の一番基本に、奉仕の心を置いて、事業を運営する。そしてその奉仕の心を絶えず育成し、強化していく。これがロータリーの目的だ。」「これで、ロータリーの目的といましようか、目標といふのは、実にわかりやすく説明ができると思つております。

(5)よしの「ロータリーの綱領」は4項目に分かれていて、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕について述べられていて、解説する人がいますが、これは重大な誤りである。この文章の表題が「Objects」ではなく「Object」にあることから、目的はただひとつ、すなわち「有益な事業の基礎」として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」といふであつて、それ以降の

4項目は、目的達成するための付帯事項ないしは説明であることと理解しなければならぬ。

ロータリーの効用は、一人一業種で選ばれた良質の職業人が、毎週1回の定例の会合に集まり、例会を通じて奉仕の心を育むことにある。即ち、ロータリーの基盤となるものは「有益な事業を基礎とした」職業奉仕であり、ロータリアンがクラブ例会を通じて学ぶのは、奉仕活動の実践ではなく「ideal of service」即ち、奉仕の心を育むことであることに留意しなければならない。

(6)本文に続いて、ロータリアンが育むべき奉仕の心の実践についての具体例が、4項目からなる付帯事項として示されている。第1項が奉仕の心を作る。第2項が奉仕の心の内容。第3項が奉仕の実践。奉仕の心を家庭と職場と社会に実践。第4項が国際奉仕の実践です。

6月14日(木)例会の御案内

「1年を振り返り」

- 会長 神田 憲
- 副会長 加藤 正樹
- 幹事 内藤 明
- 役員・理事 一同

プリンテン委員会
山口 正孝 神野 邦利・大原敏正